

福井県文書館古文書読解講座

* 外字 **ㇿ** no4394 **ㇿ** no1846 **ㇿ** を示します。

A0027-00100 片岡五郎兵衛家文書

(表紙)

「下馬村六郎兵衛妻離縁申分内済証文」

内済和談証文之事

一下馬村先ノ六郎兵衛儀者、跡世次之子共無之二付同村又右衛門義者内縁之者二御座候二付又右衛門娘もよと申者年三才之頃 貫生
育候処、男子養子之儀者同村門左衛門悴与三右衛門与申者貫
受候所、六郎兵衛病死仕候二付右貫置候両人之男女跡相続仕候間、
六郎兵衛病死之翌年養娘与養子与三右衛門与婚禮仕度一家共
寄合及示談候所、与三右衛門申候八此形二而八もよと婚姻難致候、
一旦もよ親本又右衛門方へ引取齒染仕候而遣候八、婚禮可致旨
申之二付、任其意又右衛門方へ引取齒染致候上二而婚禮取結候、
然る所当六郎兵衛去年来願書を以願出申候八家内もよと
不和二相成、離縁之上親里又右衛門方へ引取呉候様申通候得共
又右衛門承引不仕、村方二而和談可仕旨被仰付、及内談候得共
落着不仕候間
御上様御威光を以又右衛門方へ早速引取候様被仰付被下
置度旨願出候処、村役庄屋八兵衛義八元来当六郎兵衛伯

父故先達而当六郎兵衛、門左衛門方 養子二仕候節仲人二而婚禮取結候節も色々添仕候訳合有之趣、当六郎兵衛此度離縁仕、親本へ相返度旨申出候二付、庄屋八兵衛始相役之村役人共色々及挨拶候へ共聞入不申義二付六郎兵衛願書二奥印難成旨申之、六郎兵衛一判之願書二付御取揚難被成候趣二候へ共、六郎兵衛申立候八此儘二而八家相統難出来旨様々申立強而相願候二付御調御座候処、御差押被置候而八難相治義二付又右衛門方御調御座候処返答書を以訳合申上候処、又右衛門返答書二も村役人奥印難仕旨申之、則訴答之願書二奥印難致訳合別紙二村役人共 書付を以御達申上候、然る所、当夏内済被仰付為御 204394 人御支配大庄屋井上猪兵衛殿并御同役尾竹織右衛門殿御兩人御指向ケ被下御調御座候所、又右衛門并二六郎兵衛妻もよ申立候八もよ義六郎兵衛方へ養女之約束二而三才之頃 指遣置先ン六郎兵衛被申候八我等死後二至り若何様之義出来候共もよ義者当家相統為致我等忌日命日訪弔ひ可仕様遺言

通有之候旨、又右衛門・もよ・仲人八兵衛共申之、何様之儀被仰付候而も又右衛門方へ引取可申筋合無御座、六郎兵衛家 外へ出シ候儀者難成候間、もよ義六郎兵衛方氣二人不申義も有之候八、何二而も為相改六郎兵衛命を不相背候様可仕候条、六郎兵衛と以来睦間敷家相統可仕様相願、此外八何様之内済被仰聞候而も承知難仕旨申之候、六郎兵衛申立候八家内もよ義三才之頃 六郎兵衛家へ参居候者故養女顔仕、私を苗代二取扱何事も夫卜の申聞候義不相用、尤養女与申立候へとも養女二而者無之、婚礼取結候節

親本又右衛門方へ一旦引取齒染為仕り（ママ）遣候へ八養女之義二八無之旨
申上候所、m04394 人中御尋被成候八もよ身之上ニおゐて右申立候外
八申分無之哉与御尋被成候へ共、右之外何之故障も無之候得共
離縁仕親本又右衛門方へも引取不申候而八承知難仕旨申之
候処、猶又御尋被成候八婚禮仕候節 不和二候哉与御尋御座候処、六郎兵衛
申上候八五年以前丑二月婚姻仕、丑 m01846 両年八睦問敷、寅ノ暮
不和二相成候段申之二付、もよへ右六郎兵衛申口之通ニ相違無之哉与御尋御
座候所、もよ申達候八六郎兵衛方申上候義八偽りニ御座候、丑二月婚禮之取
結八仕候共盃仕候迄ニ而夫婦之馴合是迄終無御座、もよ義八随分
諸事随ひ候へ共私ニ言葉之掛為替無御座旨もよ申之、右双方
之申口二付御 m04394 人中双方へ色々御利解被仰聞、濟方等厚被仰談候
へ八、双方共右申方 外少も相寄り不申破談可致 外無御座
義二付、当盆前御 m04394 人中御役所様へ御達被成候所格別之
御慈悲之思召を以又々再内濟被仰付、先御 m04394 御両人中へ御同役
片岡五郎兵衛殿御指加被成下、御出張之上猶又双方御調被成候処、双方共前文申上之通
申上候二付御 m04394 人中又右衛門・
もよ兩人へ御理解通り被仰聞候八、もよ義三才之頃 六郎兵衛
家へ罷越養女之旨申立候儀内裏ニ而八訳合も可有之哉二候へ共、養
女之証拠も無之、一旦又右衛門方へ引取齒染仕候而婚禮仕候得者
急度養女与申立候義も難相立候、当六郎兵衛も先ン六郎兵衛存命
中跡為相統養子ニ仕先ン六郎兵衛落命之節 跡相統仕候趣
二候得者、当六郎兵衛もよ与不和二候八、親里へ引退き可申与七難申

聞哉之旨御理解被仰聞候、且又六郎兵衛へ御理解被仰聞候ハ先
六郎兵衛内縁モ有之モよ故、三才之頃 貴受慈愛を以相

育候者、其上証抛ハ無之候得共モよ始親又右衛門并其方六郎兵衛

方へ養子二罷越候節之仲人其方伯父同村ハ兵衛へモモよ義ハ

養女二候へハ何様之義有之候共六郎兵衛家 外へハ出シ吳間敷旨

先六郎兵衛三人へ申置候義モ可有之旨強而申立候、猶又先達而

申達候ハ、丑二月致婚禮、丑 m01846 両年ハ睦間敷候へ共寅暮

不和二相成旨申立候へ共、モよ申候ハ丑二月婚禮ハ仕候へ共終夫婦之

馴合無之趣申達候、モよ申立候通二相違モ無之義二モ候ハ、婚禮

之節親本又右衛門方へ相返シ齒染為致候義ハ行々ハモよと離縁

仕親本へ可相返工ミニモ相当リ可申哉、然ハモよ義親本又兵衛方へ

引取之義強而難申聞、猶又亦右衛門・モよ共元形之和談相願

候へ共縁合之義ハ m04394 人 押而難申聞義、依之双方申立二順シ

内済之趣意左之通

一六郎兵衛義家内モよ与致離縁同居仕亭主世帯是迄之

通り六郎兵衛相捌き、家内女世帯之儀茂是迄之通りモよ支

配仕離縁仕候上ハ猶々互二我意不申立、兩人何ニモ諸事談合ハ

費無之様致勘弁、六郎兵衛家相統第一二心懸可申事

附リ離縁之上二而双方 世帯相捌き候義二候へハ双方共世帯捌き

方龐末無之哉月々双方之一家共立合相調可申候、猶又

モよ義ハ金銀等取捌不申義二候間、モよ年中之散錢小遣銀

与して毎年正月二銀六拾匁ツ、六郎兵衛 モよへ相渡可申候、

尤もよ着類之儀も分限相応ニ六郎兵衛方 致遣シ差支
無之様可致事

一六郎兵衛儀妻縁致度候ハ、其節御達可申上候、尤右妻之
儀者御城下之内并在方ニ而も是迄若内々馴合之者

有之候共妻縁仕義ハ決而致間敷、在方之内ニ而人柄

見立六郎兵衛家之一家共当六郎兵衛親類之者相談之上妻
縁可致事

附り右妻女へ六郎兵衛方世帯向為相構申間敷事

一六郎兵衛妻縁仕候ハ、もよ義も婿等入レ、尤右婿之儀若

是迄内々馴合之者、并御城下之者ハ入申間敷、在方之内

ニ而家柄人柄見立一家共相談之上随分年若成者

ヲいれ右もよ婿を当六郎兵衛養子ニ仕、六郎兵衛跡相続相譲り可申候、

当六郎兵衛 もよ婿へ世帯向相譲り候ハ、家内女世帯向之儀もよ

当六郎兵衛妻へ相渡可申候、且又当六郎兵衛妻ニ子共有候ハ、もよ婿

之養子ニ仕跡相続為致可申候、猶又もよへ婿入候節御達可申上事

附り六郎兵衛後妻ニ男子有之、もよニ女子有之候ハ、夫婦ニ可仕、いつれ

双方ニ男女有之候ハ、其時双方并一家共相談之上双方之子共へ

跡相続為致可申事

一右和談ヲ以六郎兵衛家相続仕、若々此未不和順ニ相成、同

居難致義も出来候ハ、六郎兵衛持高百式拾石之分并家諸

具（道脱力）何ニ而も一切当分ニ仕、六郎兵衛・もよ双方之内同居難成旨

申出候方別家可仕候、尤左様仕候而も先ン六郎兵衛義他家 養

養（衍）子二参候節八、六郎兵衛方持高六拾石なら而八無之趣二候得者

当分二分合候而も先年之六郎兵衛持高程ツ、双方二所持罷在

候道理二候、右別家之儀八六郎兵衛方あじ地与称へ可申候、家名

之儀者、先ン六郎兵衛、若名を相用文助与名乗り可申候、

手次寺之儀者六郎兵衛願寺へ参り、先ン六郎兵衛忌日・命日

訪弔ひ丁寧二致シ家相続出来候様可致事

附り右田地分之義八田畑上中下坪付之通平均二仕、不直

無之様二致シ、鬮引を以引分ケ可申候、猶又家諸道具

何二而も式ツ分二不相成品八直段積を以、是亦鬮引二

可仕候、尤右訳方之儀者双方一家村役人立合可申事

右ケ条之通内済熟談可仕旨、御 m04394 人中被御申

聞双方共御受申和談仕候処少も相違無御座候、

然る上者右此度相極り候内済ケ条之趣一

々以来急度相用ひ違乱仕間敷旨、被入

御念被御申渡双方承知奉畏候、為後証済

口証文双方印形仕為取替申処、仍如件

文政四巳年九月 下馬村

六郎兵衛印

同人実父

門左衛門印

同人内

もよ印

平成 17 年 10 月 14 日

もよ父

又右衛門 印

双方一家親類

八兵衛 印

六郎兵衛家之一家

又兵衛 印

同断

長兵衛 印

同断

弥三右衛門 印

同断

宗右衛門 印

双方一家

勘左衛門 印

右内濟御調之節村役人共同席二罷在

双方共内濟御請申候所承知仕候間、奥印

形仕候、以上

同村

長百姓

与左衛門 印

同

六左衛門 印

庄屋

平成 17 年 10 月 14 日

右内済我々取調二付令奥印形者也

八兵衛印

大庄屋

片岡五郎兵衛印

同

尾竹織右衛門印

同

井上猪兵衛印